



295号
2024/7

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t taizan@yahoo.co.jp



台中緑川水岸廊道：台湾台中駅前の公園です。日本統治時代に京都の鴨川を模して整備したとか、ネット記事に出
ていました。市民の憩いの場となっています。台湾新幹線(高鐵)の台中駅と在来線の台中駅はちょっと離れてい
ます。新幹線の駅は近代的で面白くありません。
(2024年4月 台中市にて 佐々木健之)

hóng hú zhī zhì
鴻 鵠 之 志

中国で見つけた“有名小学校入学準備の為の”絵本から

文と訳・有為楠君代

この言葉は、「燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや」として日本でも良く知られています。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・ >

陳勝は若い頃、金持ちの家の小作人として暮らしていたことがあります。ある時、彼は農作業の手を休めてあぜ道で一息つきながら、一緒に農作業をしていた仲間たちに言いました：「将来この中の誰かが出世して金持ちになっても、みんなこの仲間のことを忘れないようにしようぜ」

みんなはそれを聞くと大笑いしながら言いました：「我々のような人間にどんな立身出世の機会があると云うんだよ！」陳勝は、空を見上げながら言いました：「雀や燕にはやっぱり、鵬や白鳥の志の高さは分からないものだなア」

彼は心の中で：「目先のことばかり気にしている人たちには、心の中に大志を持つ人間の考え方など理解できないのだ」と思いました。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・ >

言葉の意味：鴻：大型の雁、転じて「おおとり=鵬」、鵠：白鳥。鴻鵠の志=大きな志を表す。

使い方：目先のことばかり見ている人たちには、我々が正しいということが理解できないのだ、「燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや」だよ。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・ >

陳勝とは、言わずと知れた、中国史上最初の農民反乱指導者で、初めて中国を統一した秦王朝が滅亡するきっかけを作ったと言われる人物です。

秦は周代・春秋戦国時代を通じて、中国の西の端に位置し、国土はかなり広いのですが、中原の国々からは野蛮な国として、一段低くみられていました。しかし戦国時代になると、人材を国外からも招き、国の体制を整え、国力を強めていきま

した。特に商鞅の改革は、彼の死後も有効に働き、秦を強国の一つにと成長させました。

B.C.247年、秦王政が10歳で即位し、同238年に実権を握ると、李斯を宰相として、周りの国々を制圧し、B.C.221年に始めて中国全土を統一し、始皇帝となり、B.C.209年に死去しました。

始皇帝死去の前年、陳勝は兵士として、人足を工事現場まで送り届ける任務に就きましたが、途中大雨で道が崩れてしまい、期日までに現地へ到着することが不可能となりました。当時の秦では、朝廷の命令が期日通りに達成できないと、理由の如何を問わず、担当者は打ち首になる決まりでした。

到着が間に合わないと知れた時点で、陳勝は仲間の呉広と相談し、護衛してきた人足たちを誘って、秦に反旗を翻すことにしました。その時、仲間を煽った言葉が三千年後の現在まで語り伝えられています。曰く「王侯将相安んぞ種あらんや」——つまり「国王貴族、將軍丞相なども我々と同じ人間だ。俺たちが取って代わることも出来るんだぞ」という気概を示したものです。

この陳勝呉広の反乱をきっかけに、始皇帝死後の混乱も重なり、秦国内のあちこちから反乱がおこり、統一国家秦はB.C.206年に僅か15年で滅亡しました。陳勝と同じように、地域の人々を纏めて反乱を企てた、項羽と劉邦が最終的に勝ち残り、楚漢戦争と言われる二人の勢力争いを制した劉邦が漢王朝を立ち上げ、秦滅亡後の混乱を收拾したのでした。

3000年もの昔、今よりずっと厳しい生活を強いられたであろう農民からも、陳勝のような考えを持つ人が出て来る中国という国は、本当に興味深い国です。



挿絵：満柏画伯

江南の詩(2) 白居易の詞 憶江南

おく こう なん

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

白居易は中唐期を代表する詩人で、同時代の韓愈と並んで〈韓白〉と呼ばれることもあります。父親の代までは地方官を務める下級官吏の一族でもありました。安祿山の乱により多くの名家が没落し、これに代わって科挙出身の新興階級が台頭してきました。白居易はその中の一人です。家族と共に江南地方を移動しながら苦学力行の末、29歳で進士科に及第。その後杭州刺史として赴任。一度帰京した後も自ら望んで杭州刺史として再任されたとも言われています。

今回の作品は引退後、洛陽郊外の竜門香山寺に滞在し、江南の風景を思い起こしながら読んだものと伝えられています。

ちなみに白居易はこのお寺が気に入ったらしく、自ら香山居士と号しています。

yì jiāng nán
憶江南

bái jū yì
白居易

jiāng nán hào
江南好

fēng jǐng jiù céng ān
風景旧曾諳

rì chū jiāng huā hóng shèng huǒ
日出江花紅勝火

chūn lái jiāng shuǐ lǜ rú lán
春來江水綠如藍

néng bú yì jiāng nán
能不憶江南



洛陽香山，別称竜門東山（百度百科より）

〔訓読〕

よ
江南好きかな

もと かつ そらん
風景旧より曾て諳ぜり

ひい こうかひ まさ
日出づれば江花火に勝り

きた こうすいみどり あい
春来れば江水緑にして藍の如し

よ おも
能く江南を憶わざらんや

作者は科挙に受かった後、一度地方勤務を経て左拾遺に任命されます。官位は高くありませんが、朝廷に間違いがあればこれを正すという役割を担っていました。若いエリート官僚として官界に登場した白居易はこの立場を利用して、政治を批判する〈風諭〉の詩を多く書きました。しかし反対勢力から強反発を受けた結果、左拾遺の地位から離され、左遷の苦しみを味わうことになります。左遷の屈辱を機に、〈風諭〉は次第に影を潜め、〈感傷〉〈閑適〉の詩を多く書くようになります。

白居易は杭州郊外の西湖の風光をこよなく愛していました。作者の目に焼き付いたこの情景こそが〈感傷〉と〈閑適〉を結びつける要因の一つになったと思われます。

〔和訳〕

よ
江南の風光や佳し

せん
先より既に熟知せり

岸の花々朝日に燃えて

みどり あい そ
春なれば川の緑は藍に染む

忘れ難きや江南

「小浪底」の国際的ブランド化(つづき)

文と写真=村上直樹

今年甲骨文字発見 125 周年である。1899 年北京で、金石学に造形の深い王懿榮と劉鉄雲が、たまたま葉材として購入した獣骨に刻まれた文字に驚いた、という話は出来すぎで、その信憑性は疑わしいそうだが、いずれにしても甲骨文字の発見、およびそれに続く「殷墟」の発掘が中国の歴史を 1000 年後ろに延ばしたことは間違いない。河南省安陽市にある殷墟と 2009 年 11 月に開館した「中国文字博物館」には近いうちに、ぜひ、行ってみたいと思っている。殷墟は 2008 年 3 月に一度見学しているが、今年(2024 年)2 月には殷墟博物館の新館が公開されたと聞く。

先日は、とりあえず日本国内で、甲骨文に詳しい知人と「書道博物館」(東京都台東区)へ行ってみた。ここには洋画家にして書家であった中村不折(1866 年生-1943 年没)が収集した中国と日本の、文字に関わる貴重な文物が所蔵・展示されている。事前に連絡して学芸員による解説も聞くことができた。甲骨文字に関して常設されているのは、董作賓が定めた 5 つの期に亘る亀の甲羅と牛の肩甲骨が計 9 片である(ただし、第 4 期は牛の肩甲骨のみ)。なお、同館には 500 ほどの甲骨片が所蔵されており、今年の 7 月から始まる企画展「漢字のはじまり」(仮称)ではそのうち多くが展示されるそうである。

さて、ここからは前回のつづきで標題に即した話題に移りたい。前回の最後にお話したように、2022 年 2 月の孫学敏・鄭州大学教授による講演を契機として、(河南省洛陽市孟津区小浪底鎮)小浪底村を中心にダムの名称にあやか肖って「小浪底」をブランド化し、国内外に広めて地域の活性化につなげようとする動きが見られる。その背景には小浪底ダムの北岸はこのダムをテーマにした 4A 級の観光名所ができるなど経済的にも潤っているのに対して、南岸にある小浪底村の産業発展は遅れているという現実がある。

ブランド化というと、法的な権利保護を求めるために(中国の)知的所有権制度の下で商標登録を目指すことになるが、より広い意味では「小浪底」という共通の名称をブランドとして付けることによって、

その製品の質を保証し、高い価格で販売できるようにするさまざまな取り組みと捉えられる。因みに、日本では農林水産物・食品の地域ブランド化の推進を目的として 2006 年 4 月 1 日に「地域団体商標制度」が導入された。2024 年 4 月末現在、「松坂肉」、「関さば」、「三ヶ日みかん」など 769 件の文字商標が登録されている。

小浪底で進められているブランド化の具体的対象としては、①地元産の農林水産物と関連食品、②旅行商品、とくに近年、中国政府がその推進に積極的な「研学」旅行(研修旅行)、③製造業、とりわけハイテク分野の製品、などである。

2022 年 4 月 15 日には「首届中国『小浪底』品牌発展国際研討会」(第一回中国「小浪底」ブランド発展国際シンポジウム)も開催された。コロナ禍のため会場は小規模であったが、オンラインも含めると 3,000 人余りの内外専門家、企業家、行政担当者などが参加して、小浪底ブランドの発展とそれによる地域振興について議論がなされた。たとえば、海外からの参加者の 1 人は昨今、世界的に注目されている国連の SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標。中国語では可持続発展目標)との関連でブランド化を進めてはどうか、という提案をしていた。

この会議中には「小浪底品牌運営中心」(小浪底ブランド運営センター)も正式に発足した。場所は小浪底村および、鄭州市にある「鄭州雲創衆創空間」内の



小浪底村の「小浪底品牌運営中心」(2023年12月撮影)

2か所である。なお、後者の「衆創空間」とは起業・創業を支援する組織である。「鄭州雲創衆創空間」自体については2020年9月号の「雑感」で少し詳しく紹介した。このセンターは小浪底ブランドの保護・管理、その利用促進等を業務としている。写真は小浪底村にあるセンターの建物である。

ブランド化に関連して2023年2月には全国から集まった172件の応募作品の中から3回の審査を経て「小浪底躍龍門」のロゴマークも選定された。「躍龍門」あるいは「鯉躍龍門」とは、(小浪底が所在する)孟津周辺の鯉が黄河を遡り、龍門付近(現在の「龍門石窟」がある場所)の高い波を跳び越えた鯉だけが龍になることができた、という伝説に基づき、古来、一躍向上を目指す図案のモチーフとなっている。

写真は一等賞に輝いた汪敏氏の作品である。全体として「浪」の文字が模^{かたど}られている点の特徴である。勢いよく昇る朝日、激しい黄河の波、それを越えようとする鯉が描き込まれており、孟津地域の文化(河洛文化)やダム周辺の観光資源を利用した旅行産業の将来性を象徴している。色は青と緑が基調であり、これは和諧(調和)、生態(エコ)、希望および活力を表している(微信公式アカウント『小浪底品牌管理』2023年3月21日)。

最近の話題としては、去る5月18日と19日に、昨年3月の第一回につづく「第二届中国小浪底輪滑文化節」(第二回中国小浪底ローラースケート文化祭)が小浪底村で盛大に開かれた。主催は中国ローラースケート協会、洛陽市体育局、孟津区人民政府であり、競技会では全国から集まった1,650名の選手が



汪敏氏作のロゴマーク(『百度图片』より)



小浪底丰收餐(2023年12月撮影)

熱戦を繰り広げた。こうした全国レベルの催しを開くことで、小浪底村の知名度が高まり、ブランド化を後押しすると期待されている。同時に開催されたシンポジウムでは、鄭州大学の孫学敏教授が「小浪底輪滑文化節与鄉村産業発展」と題する講演を行い、2年間のブランド化活動を総括すると共に、その更なる展開方向を語っている。

具体的にブランド化し名称の前に「小浪底®」を付けることのできる農産物として、コメ(大米)では「黄金晴大米」、「粒粒香大米」;粟(小米)では「黄金贡小米」;粳米では「隆平黄河香粳米」(隆平とは「ハイブリッド米の父」として世界的に知られ、2021年5月に90歳で亡くなった袁隆平氏を指す);トウモロコシ(玉米)では「超级绿色鲜食玉米」があるほか、ブドウ、ザクロ、山椒にも小浪底ブランド系列製品がある(『小浪底品牌管理』2024年6月3日)。

とくにコメについては、孟津、原陽(河南省新郷市)といった黄河流域はもともと土壌の性質、気象条件から高品質の水稲の産地として知られていた。この地でさらに30年間、栽培方法等の改良が重ねられ、味、色、栄養価に優れたブランド米が誕生した。単に地元(孟津)だけでなく、行政区域を跨る(この場合は原陽県)取り組みの成果である。

ところで、昨年(2023年)末に現地に行った際、昼食に出たのは写真のような料理である。野菜、肉など地元でとれた農産物がたっぷり入った濃厚なスープで、名前は「小浪底丰收餐」という。素朴ながらも味はとても良かったので、私などはこの郷土料理をブランド化して国内外に売り出してはどうか、と思ったが、どうやらその気はないらしい。(つづく)

「秦皇島」から「承德」へ

「避暑山荘・外八廟」駆け足旅行(14)

文と写真 吉光 清

先日の毎日新聞「余録」に、今年はカメムシが大発生する話題が取り上げられていた。カメムシが農作物に深刻な打撃を与えることに関係無く、カメムシは大概、人に嫌われている。カメムシ好きという人にはお目に掛かったことが無い。

記事では、カメムシとパクチー(香菜)嫌いとの関連を面白く読ませてもらった。パクチーの独特な匂いはカメムシの発する匂いと共通に含まれる化学物質のせいであり、そのため、パクチーは「カメムシソウ」とも呼ばれ、英語名の「コリアンダー」も近縁昆虫の「南京虫」を指すギリシャ語に由来するとのことであった。それで、パクチー嫌いが存在することも納得した。

更に、紹介されていた最近の研究では、「日本人の過半数はパクチーの匂いを苦手と感じる遺伝子を持っている」ということである。となれば、“わんりい”の新年会に参加し、シュワンヤンローに舌鼓を打つのは、そうした遺伝子を持たない人々だということになる。

筆者は料理の薬味としてのパクチーを歓迎する側であるが、我が家では「1対2」と過半数争いに敗れるので、食卓に現れることは無い。

ところで、香り(匂い?)が強烈な食べ物の一つに「ドリアン」がある。「果物の王様」と言われるが、その強烈な香りゆえに、王様に断固として服従しない「反体制派」の方も結構いらっしゃるようである。

そこで考えてしまう。ドリアンの匂いの素になる化学物質への好悪は遺伝子のせいだろうか? マレーシアやインドネシアのように、圧倒的にドリアン好きが多そうな国の場合、その遺伝子の所有者は少ないのだろうか?

■「避暑山荘」を出て、ドリアンを買う

薄暗くなりかけた「避暑山荘」中を出口を目指して歩いた。同じ方角に向かう人影はまばらであった。時刻は午後5時を回っている。少し、空腹も感じられて

きた。

「避暑山荘」から出てホテルに向かって歩き出したら、すぐ右手の「関帝廟」が人々で賑わっている。境内はお線香の煙で霞んでいる。

本日中に、明日の北京行きの目途をつけ

なければならないので、其処は横目で見て通り過ぎた。長距離バスのターミナルに行くための「1路」バス乗り場の確認、北京行きの発車時刻を確かめ、出来れば切符を入手しておきたかった。

途中で思いついて、昨日のホテル探しでお世話になった果物屋に立ち寄った。“昨天你们帮了我，非常感谢!”を連呼しながら、お礼代わりに果物を購入した。ドリアンの果肉だけがパックで売られていたので喜んで購入した。ネクタリン2個、サクランボ少々と合わせて37元だった。

ドリアンを買ってしまったので、そのまま乗り合いバスに乗ることは躊躇われた。いったんホテルに戻り、置いて行くことにした。その途中で、昨日と同じ場所でシャンチーの対局とそれを取り巻く見物人が見られたので、“本当に好きなんだなァ”と、ちょっと感動した。

一抹の不安は、ホテル従業員がドリアンの香りに気づき、部屋に通してくれないのでは、ということであったが、パック詰めドリアンを嚴重にタオルで巻き、ザック奥にしまい込んで、事無きを得た。

荷物を部屋に置き、「承德医学院附属病院」の交差点まで取って返して、「1路」バスの乗り場を探したら、「新華路」バス停が難なく見つかった。

■「承德汽车东站」に行って確かめた

「避暑山荘」の方向から来た「1路」バスに、運転席横の集金箱に2元を入れて乗車した。座席は埋ま



購入したドリアンと食べた後の種子

っていたので、降り易いように降車ドア近くに立った。バスは東に直進して、「承德大橋」で「武烈河」を渡るとすぐに「车站路」に入り、河岸から少し離れて鉄道線路と並行するように走る。バス停を6つ過ぎた交差点で「長深高速」に向かう道と岐れて右折し、「府前路」に入り、更に突き当たった「迎宾路」を「武烈河」に沿って南下する。「迎宾路」に入って7つ目のバス停が「承德汽车东站」だった。



「新華路」から「承德汽车东站」までの経路
(「百度地図」に記入)

乗車して所要40分程であったが、着いた時は午後6時発の長距離バスが出発した後だったので、残念ながら、翌日の切符は買えなかった。しかし、北京行きのバスは日中、頻繁に出発し、料金は85元だと分かった。

「此处から市街地方面に向かうバスは全て、『承德大橋』を通る」と聞かされていたので、やって来た「29路」のバスに乗車してみた。このバスは「承德(鉄道)駅」バス停にも停まった。「承德大橋」バス停で下車し、午後7時を回っていたが、折角なので、川べりを10分ほどブラついた。ホテルへ戻る途中のコンビニで食料を買い込み、部屋での夕食後のデザートはドリアンなどの果物という豪華版、ドリアンの大きな茶色の種子を記念撮影した。その後、ホテルのWiFiを利用してチャットをした。

■朝の散歩で関帝廟へ

承德での3日目の朝、7時前からの朝食ビュッフェ



打って変わり静まり返っていた、朝の「関帝廟」

を済ませ、荷造りを終えたところで、散歩がてら「関帝廟」に出掛けた。行きがけに、一昨日、「新華路」のバス停を乗り過ごして降りたバス停の表示を見ると「小佟沟口」とあった。道路の反対側に渡り、「避暑山荘」の「仓门」のすぐ傍にある「関帝廟」に着いた。ひっそりとして、昨日の夕方、通過した時に見た混雑が嘘のようで、ひっそりと静まり返っていた。

石段の上に聳える堂々とした建物に掲げられている金縁の扁額には、青地に金文字で、左から「神財武」とある。下には横断幕

が張られており、「免费开放—承德皇家关帝庙农历五月十三举行祈福迎祥法会」とある。近々、法会が開催されるようであるが、これは果たして「関帝廟」の行事なのだろうか？ と不審に思った。

中に進むと中文と英文が併記された施設説明盤があった。曰く「『関帝廟』は『武廟』とも呼ばれ、雍正帝が1732年に建立した。乾隆25年に、廟の左右と後ろに宮廷の建物を増築する命令が下された。乾隆43年には清の法律に従って銀5893両を使用して・・・中略・・・灰色の粘土屋根瓦が黄色の瑠璃瓦に改修され、皇帝の『寺院』となった。・・・中略・・・乾隆帝は線香を焚き、参拝した。大臣たちも派遣されて、それらを行なった。それ以来、神聖な寺院として、宮廷の役人や、諸民族の首長や外国からの特使が仏陀に参拝するだけでなく、役人が居住する場所にもなった」。 (屋根に「走獸」も見える)。

皇帝が建造した「関帝廟」であり、「避暑山荘」の一部を成す建物群が併設され、仏教寺院及び行政的な施設としての役割も担っていたのだと納得した。ホテル撤収のことを思い、参観を切り上げてホテルに戻る途中、2人の老人が並んで立つ像に出会った。一体、何者だろうか？ (つづく)

●資料：

- ・「毎日新聞」(2024年5月24日朝刊)第53380号
毎日新聞東京本社発行、
- ・「承德市城区导览图」、中国地图出版社

阿里山の“尾無しの竜”

訳：一瀬靖子／大槻一枝

台湾中部にある阿里山に住んでいた阿冬（アドン）老人が、ある日小さな溪流に沿って歩いていると、草むらに丸い卵を見つけた。卵の殻には五色の縞模様が入っている。彼はこれを見て鳳凰の卵かと喜んだ。家に鳳凰が棲みつくと幸せが来るという。彼は、卵を抱えて家に戻った。ちょうど都合よくガチョウが五個の卵を抱えていたので、縞模様の卵をそっとガチョウのおなかの下へ押し込み、ほかの卵と一緒に抱かせた。

ひと月経ち、五個のガチョウの卵は皆殻を破って出て来た。黄色い産毛をふさふささせながら、可愛い足取りであたりを駆けまわる。縞模様の卵とは言えば、それから9日も経た後、やっと殻が破れた。老人は鳳凰の卵と思っていたが、出て来たのは小さい蛇だった。

「小さい縞模様の蛇も悪くはないさ」と、老人は蛇を素焼きの鉢に入れて飼育し、毎日オタマジャクシやアブラムシなどを与えて育てた。蛇の成長はとても早く、数日すると鉢に入りきれなくなった。彼は蛇を大きい水がめに移した。数日後、“蛇”の頭に二本の角が生え、頬のあたりには髭が、体には鱗が生えて来た。蛇ではなく竜だったのだ！

竜が水がめの中で跳ね踊る様子を見ているのは楽しかった。竜は次第に成長し、しまいには水がめにも入りきれなくなった。老人は竜を家の後ろの池に移した。

竜は池に入って欣喜雀躍、一層活発になった。老人は豚の血を買ってきて竜に与えた。竜はたちまちこれを平らげ、体を起こして老人に頷いて見せた。「お爺さん、ありがとう」と言っているように見えた。老人は白いひげを撫でながらハッハッと愉快そうに笑った。

竜はどんどん大きくなり、池にも収容しきれなくなった。阿冬老人は言った、「竜よ！お前は阿里山の洞窟に行って住みなさい。私が毎日豚の血を

買って、お前に持って行くから」と。竜は頷き、池を這い出して、阿里山の麓の大きな洞窟に移り住んだ。

隣村に目が悪いお婆さんがいて、小さな孫娘が彼女の世話をしていた。ある日、その孫娘が赤い上着に赤いスカートをはいて、竜の住む洞窟の前を通った。竜は老人が豚の血を届けに来たのだと誤認し、洞窟から頭を出して、小さな孫娘を一口に丸呑みにしてしまった。これを知った阿冬老人は怒り心頭に発し、包丁を持って洞窟に近づき、声高に罵った。

「竜よ！お前は大それた罪を犯した。目が悪いお婆さんの小さな孫娘を食べてしまったのだ！お婆さんはこれからどうやって生きていくんだ！お前の尾を洞窟の外に伸ばしなさい。私がお前の尻尾を叩き切って処罰してやる」。竜は自分の過ちを知ると、尾を洞窟の外に伸ばすしかなく、阿冬老人に一刀のもとに切断されてしまった。

阿冬老人は、「お前は人を食った。本来なら私はお前を切り殺すべきだ。命を以て命を償わなければならない。しかしそれでは目が悪いお婆さんの世話をする人がいない。これからはお前がお婆さんの世話をするのだ。彼女が良い晩年を過ごせるように。怠けてはならないぞ」。

竜は尾を切り落とされて尾無しの竜となったが、話ができるようになった。お婆さんの家まで這って行き、何度も頭を下げながら、「これから私を貴方の息子にしてください。貴方を『お母さん』と呼ばせてください。私は間違いを犯しました。お孫さんが赤い服、赤いスカートを着て洞窟の前に来た時、私は阿冬老人が豚の血を届けてくれたのだと勘違いし、一口に呑み込んでしまったのです。阿冬老人は、私を罰し、私の尾を切り捨て、私は尾無しの竜になりました。お母さん！私は貴方を一生お世話します。よそから鶏、家鴨、食糧など

を盗んできて貴方に差し上げることはできないし、よその金銀を盗んできて貴方に用立てることも出来ません。でも東海の海底には金も銀もあります。私は海中に潜って金銀を啜って来ます。それを家の後ろの洞窟に隠しておきますから、貴方はそこに金銀を取りに行ってください。その金銀で村人に頼み、米、肉を買わせて、食事を作ってもらってください。また布を買わせて服を縫ってもらってください。私を呼び出すときには、木の棒で銅板を叩いてください。私はすぐにやって来ます」。

「お母さん、貴方の目はまだいくらか物の形が見えると思います。杖を頼りに洞窟に行き、金銀を取り出してください。けれども、洞窟に隠された金銀のことは、絶対に、人に話してはいけません。悪い人に盗まれないようにしながら、安心して晩年を過ごしてください」。

お婆さんは小さい孫娘が竜に食べられたと聞いて驚いた。涙がとめどなく頬を伝い、竜を殺して恨みを晴らしたいと思った。しかし、竜が自分を息子にして欲しいと願い、何回となく“お母さん”と呼ぶのを聞くと心は萎えた。竜が食べてしまった孫娘は、豚の血と間違えられたのであって、竜は阿冬爺さんに尾を切られ、処罰された。死んでしまった孫娘をもう生き返らせることはできないのだ。竜は息子として心を尽くし、自分の世話をすることを願っている。「それでいい！」と彼女は涙を拭いて言った。「息子よ、これから私達親子二人で楽しい日を過ごしましょう」。

数日後、村のある娘が金銀のことなどつゆ知らず、お婆さんの世話をしに来た。尾無しの竜が毎日、金銀を啜ってやって来たので、お婆さんの家の後ろの深い洞窟には、数千数万の金銀が積み重ねられていった。お婆さんは杖を頼りに、手伝いの娘にも告げず、密かに金銀を取り出した。口外して悪い人に漏れることを恐れたのである。こうしてお婆さんは、それからの年月をのんびり、気楽に過ごした。

目が悪いお婆さんは次第に年を取っていった。尾無しの竜は言いました、「お母さん、天上の媽祖



阿里山地区の最高峰「大塔山」(2663m)

(海の仙人) が私に天宮の門の監視を頼んで来ました。貴方も私の背に乗って一緒に天宮に行きましょう。天に昇ればあなたの目は見えるようになり、体も健康になるはずですよ」。

お婆さんはこれを聞いて言った、「若い娘がよく私の世話をしてくれている。私は彼女と別れがたい」。すると竜は「彼女も一緒に天宮に連れて行きましょう」、そう言って、阿里山を掃除し、お婆さんの家の後ろの深い洞窟を土で塞いで、お婆さんと娘と一緒に背中にまたがらせて大空へと舞い上がり、白雲を突き抜けて天宮へと昇って行った。

お婆さんの家の裏の洞窟に埋められた金銀は、尾無しの竜が海底から運んできたもので、沢山の水を含んでいた。やがて、水が浸み出して来て周りを膨張させた。阿里山は元々、高い山ではなかったが、その膨張で次第に高く大きく聳え、やがて、台湾の中央に大きく盤踞するようになった。

巷間では次のような歌が歌われた。

〰尾無しの竜が持ってきた
阿里山中は金銀ごろごろ
鍬を手に山を掘る
鍬は小さく力は弱く
さて、如何せん！〰 (おわり)

(中国人友人の『民話コレクション』より)

記者注: 阿里山という単独の山はなく、台湾の嘉義県にある地名である。また、山脈名に「阿里山山脈」があり、こちらは台湾最高峰の玉山を主峰とする玉山山脈の西に派生する枝脈の名前だ。現在は観光地で森林鉄道などで有名。 (ウィキペディアなど)

“国民詩人”と呼ばれた北原白秋(1)

和田 宏

〈“白秋”の誕生〉

北原白秋（本名：隆吉りゅうきち 1885～1942 享年57）は1885年（明治18）、福岡県柳川市で、江戸時代からの海産物問屋で酒造業も営む北原長太郎・シケの長男として生まれた。白秋が実際に誕生した母の実家は、熊本県北部の玉名郡関外目村（現：南関町）にあった。

間もなく、柳川の海辺近くの実家に移り、子ども時代は有明海で潮干狩りをしたり、ムツゴロウを捕まえたりして遊んだ。1891年、矢留尋常小学校に上がり、県立伝習館中学（現：福岡県立伝習館高等学校）に進んだが、成績下落のため落第した頃から詩歌に熱中し、『文庫』『明星』などを濫読し、ことに明星派に傾倒した。

1901年（明治34）、大火によって北原家の酒蔵が全焼し、以降、家産が傾き始めたが、依然文学に熱中し、同人雑誌に詩文を掲載した16歳の時に、初めて「白秋」の雅号を使い始めた。

〈“言葉の魔術師”〉

19歳で上京、早稲田大学英文科予科に入学し、宮崎県出身で同級の若山牧水と一緒に、新宿区に下宿した。新詩社に参加し、与謝野鉄幹・晶子、石川啄木らと知己を得、『明星』『スバル』に詩歌を発表、短歌雑誌『多磨』を主宰。たちまち新進気鋭の当代一の詩人と仰がれた。

生涯に数多くの詩歌を残し、今なお歌い継がれる童謡も数多く発表した時代は「白露時代」と呼ばれ、三木露風と並び評される近代日本を代表する詩人である。作った詩は1000編、短歌は8500首と言われ、“言葉の魔術師”であった。代表作に詩集『邪宗門』、歌集『桐の花』、童謡『城ヶ島の雨』などがある。詩、短歌、童謡以外に、『ちゃつきり節』などの新民謡、多くの学校の「校歌」にも傑作を残した。1941年に「帝国芸術院会員」となった。

〈白秋の3人の妻〉

最初の妻・松下俊子は、25歳の白秋が詩人とし

て認められ始めた頃、隣家の人妻だった。白秋が俊子に横恋慕し、不倫の仲を俊子の夫に訴えられ、姦通罪で二人とも獄に捕らえられた。出獄後、二人は結婚するも1年程で別れた。その後、1916年31歳の時、2番目の江口章子（あやこ）が現れ、



「北原白秋(ウィキペディアより)」

結婚。章子は、世間から見捨てられた痛恨貧窮の白秋を励まし、よく仕えた。彼女の犠牲的奉仕のお陰で白秋の名声は高まり、詩人としての生活も豊かになる。だが、家の新築祝いの日、章子は出入りの編集者と駆け落ちして（朝日新聞の記事2019.1.10）、白秋とは離婚した。そのあと、1921年4月、36歳で結婚した3番目の妻が、31歳の佐藤キクである。キクは、模範的な“糟糠の妻”で、“大きな赤ん坊”と言われた白秋の天賦の才を存分に発揮させ、大成させ、男女1人ずつの子をなした。晩年、白秋は殆ど失明状態となったが、キクは白秋の目となって献身的に支え、家庭に安らぎをもたらした。キクを得なければ、“国民詩人”と褒め称えられた名声は得られなかったであろう。

1922年3月に、長男・隆太郎が生まれると、白秋は自作の童謡『ゆりかごの歌』を、揺り籠を揺すりながら赤ん坊に聞かせた。

以下に、“童謡作詞家”北原白秋の、いくつかの童謡創作の背景について紹介したいと思う。

〈待ちぼうけ〉

1924年に発表された北原白秋作詞、山田耕筰作曲の童謡『待ちぼうけ』は、紀元前3世紀の中国の戦国時代末期の思想家・韓非子の説話を基に、音楽物語に仕立てたものである。

「おまえさん、何をしているのかね?」「しーっ！俺は兎がまた切り株にぶつかって死ぬのを待って

いるんだ」。

木の根っこにぶつかって首の骨を折り、死んでしまった兎を、ある男が運よく捕まえて、食べることが出来たが、しかし、これに味をしめて、日暮し、木の株の傍で待って、野良仕事をサボっているうちに、元の黍畑は、荒れ果てて箒草が茫々と伸びた荒野になってしまったという。

『待ちぼうけ』

①♪待ちぼうけ 待ちぼうけ ある日せつせと
野良かせぎ そこへ兎が飛んで出て ころり
ころげた 木の根っこ♪

②♪待ちぼうけ 待ちぼうけ しめたこれから
寝て待とか 待てば獲ものは駆けて来る
兎ぶつかれ 木の根っこ♪

・ ・ 中略 ・ ・

⑤♪待ちぼうけ 待ちぼうけ もとは涼しい黍
畑(キビばたけ) いまは荒れ野の箒草 寒い
北風木の根っこ♪

四字熟語では『守株待兎』と言い、偶然の幸運を当てる愚かさや古い習慣や仕来りに囚われて、時代の進展に遅れると言う教訓が込められている。

白秋の故郷・柳川市には、川下り遊覧船のルート沿いに、切り株の陰でウサギを待つ子供をかたどった“まちぼうけ”の大きな像があり、船頭がサービスに、“まちぼうけ”の歌を歌ってくれる。

白秋の出身校である柳川市立矢留小学校では、白秋の1月の生誕祭に合わせて、『待ちぼうけ』を歌う。矢留小学校の校歌は勿論、白秋が作詩し、耕筰が作曲した。

〈ペチカ〉

童謡『ペチカ』も白秋の作詞、耕筰の作曲である。1924年発行の『満州唱歌集』の中にある、満州の冬の情景を歌った歌詞であるが、白秋はまだ、満州を旅したことは無かった。

『ペチカ』

①♪雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ お話しましょ
昔々よ 燃えろよペチカ♪

②♪雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ おもては寒い
栗や栗やと 呼びますペチカ♪

寒い満州の冬には、暖房が欠かせない。その暖房の設備が、ペチカである。ペチカは、石炭や薪を入れて焚く。日本が、1905年日露戦争に勝ったあと、満州に残っている



「ペチカ(ウィキペディアより)」

た石造りの頑丈なロシア軍の官舎を満鉄が改築して日本人の住宅として使用した。もともとは、いわばロシアの“遺産”であった。

耕筰は日露戦争後の1910年から4年間ドイツに留学した際、ロシアや満州を通過したので、ペチカや焼き栗売りの様子を見知っていた。その様子を白秋に教えてあげた。

雪舞う満州の住宅街を焼き栗売りが、“栗ぬくーい！栗ぬくーい！”と大きな声を挙げながら売り歩く。わりりの読者の皆さんも、焼き栗を食べる時はマイナス20度にもなる満州の寒い冬に想いを馳せながら食べて下さいな(笑)。

〈からたちの花〉

『からたちの花』は、白秋が1924年に作詞し、耕筰が1925年にメロディーを付けた。耕筰は幼い頃、養子に出され、活版工場で勤労しながら夜学で学んだ。耕筰は工場で辛い目に遭うと、からたちの垣根まで逃げ出して泣いたと述懐している。この思い出話を聞いた白秋が詩にしたものだ。

『からたちの花』

①♪からたちの花が咲いたよ

白い白い花が咲いたよ♪

②♪からたちのとげはいたいよ

青い青い針のとげだよ♪

・ ・ 中略 ・ ・

⑤♪からたちのそばで泣いたよ

みんなみんなやさしかったよ♪

「からたち」は、中国の長江付近が原産で、日本では8世紀頃から植えられている、みかん科の落葉樹だ。名は唐橘(からたちばな)が詰まったものだとされている。 つづく

2桁同士の掛け算を暗算で求める早業 (2)

河野公雄

2桁同士の掛け算は、 11×11 から 99×99 まで全部で3,321通りあります。 70×83 のように0が入ったものは除外しています。また、 37×62 と 62×37 は同じものなので1通りとしています。前回紹介したパターン1, 2に含まれる組合せは161通り。全体の5パーセント弱というところですよ。

今回も、2, 3秒で答えが出る2つのパターンを紹介します。

■パターン3

十位の数が同じ
一位の数が足して10

例えば、 23×27 のような形です。十位の数がどちらも2、一位の数が3と7で足して10。頭の中では、以下のように数字を思い浮かべています。



$2 \times 3 = 6$ 、 $3 \times 7 = 21$
(に・さんが ろく、
さん・しち・にじゅういち)
6 2 1

2×3 の2は十位の数の2、そして、3は、この2に1を加えたもの。これらを掛け合わせ、6を得ます。 3×7 は一位の数の3と7、これらを掛け合わせ、21になります。これらを並べた621が答えになります。十位の数が2の場合の組合せは、 21×29 、 22×28 、 23×27 、 24×26 、 25×25 の5通りです。計算結果は以下の表のようになります。

	21	22	23	24	25	26	27	28	29
21									609
22								616	
23							621		
24						624			
25					625				
26									
27									
28									
29									

百位の数はすべて6、下二桁の数は、09、16、21、24、25となります。

もう一つ、やってみましょう。 81×89 です。十位

の数がどちらも8、一位の数が1と9で足して10。頭の中では、以下のように数字を思い浮かべています。



$8 \times 9 = 72$ 、 $1 \times 9 = 9$
(はっ・く しちじゅうに、
いん・くが く)
7 2 0 9

8×9 の9は、十位の数の8に1を加えたものです。72となります。 1×9 は一位の数の1と9、これらを掛け合わせ、9を得ます。これらを並べた7209が答えになります。ここで注意、一位の数の積が一桁の場合は、前に0をつけて二桁の数にします。十位の数が8の場合の組合せと計算結果は以下の表のようになります。

	81	82	83	84	85	86	87	88	89
81									7209
82								7216	
83							7221		
84						7224			
85					7225				
86									

上二桁はすべて72、下二桁は、09、16、21、24、25となります。十位の数が1から9のいずれであっても、下二桁はすべて09、16、21、24、25です。

■パターン4

十位の数が足して10
一位の数が同じ

例えば、 13×93 のような形です。十位の数が1と9で足して10、一位の数がどちらも3。頭の中では、以下のように数字を思い浮かべています。



$1 \times 9 = 9$ 、**12**
(いん・くが く、じゅうに)
 $3 \times 3 = 9$ 、**1209**
(さ・ざんが きゅう、
せんにひゃくきゅう)

1×9 は十位の数1と9です。それらを掛け合わせ、9を得ます。これに一位の数3を足し、12を得

ます。3×3は一位の数3と3です。それらを掛け合わせ、9を得ます。ここで注意、一位の数の積が一桁の場合は、前に0をつけて二桁の数にします。先の12に、この09をつなげて1209とします。十位の数3と7の場合の組合せと計算結果は以下の表のようになります。

	91	92	93	94	95	96	97	98	99
11	1001								
12		1104							
13			1209						
14				1316					
15					1425				
16						1536			
17							1649		
18								1764	
19									1881

上二桁は、 $(1 \times 9) +$ 一位の数、下二桁は、01, 04, 09, 16, 25, 36, 49, 64, 81となります。

もう一つ、やってみましょう。34×74です。十位の数3と7で足して10、一位の数どちらも4。頭の中では、以下のように数字を思い浮かべています。



$3 \times 7 = 21, 25$
 (さん・しち にじゅういち、
 にじゅうご)
 $4 \times 4 = 16, 2516$
 (し・し じゅうろく、
 にせんごひゃくじゅう
 ろく)

十位の数3と7を掛け合わせて21、これに一位の数4を足して25。一位の数4と4を掛け合わせて16。25と16をつなげて2516とします。十位の数3と7の場合の組合せと計算結果は以下の表のようになります。

	71	72	73	74	75	76	77	78	79
31	2201								
32		2304							
33			2409						
34				2516					
35					2625				
36						2736			
37							2849		
38								2964	
39									3081

上二桁は、 $(3 \times 7) +$ 一位の数、下二桁は、01, 04, 09, 16, 25, 36, 49, 64, 81となります。

最後にもう一つ。55×55です。これはパターン3

でもあり、パターン4でもあります。パターン3のやり方をとれば、 $5 \times 6 = 30$ 、 $5 \times 5 = 25$ で3025。パターン4のやり方をとれば、 $5 \times 5 + 5 = 30$ 、 $5 \times 5 = 25$ で3025となります。パターン3のやり方のほうが少し早くできますね。十位の数5の場合の組合せと計算結果は以下の表のようになります。

	51	52	53	54	55	56	57	58	59
51	2601								3009
52		2704						3016	
53			2809				3021		
54				2916		3024			
55					3025				
56						3136			
57							3249		
58								3364	
59									3481

パターン3のほうは、上二桁はすべて30、下二桁は09, 16, 21, 24, 25となります。パターン4のほうは、上二桁が、 $(5 \times 5) +$ 一位の数、下二桁が、01, 04, 09, 16, 25, 36, 49, 64, 81となります。

●参考:高橋清一著, ニヤンタ・デシュパンデ監修, 「脳をきたえる インド数学ドリル 入門」, 日東書院本社, ほか

■数の話

ちょっとしたゲームをしましょう。まず、4桁の数を一つ決めてください。何でもいいです。でも、1111のような同じ数が4つ並んだ数字はだめです。例えば、今年2024年ですから、2024としましょう。

次に、2, 0, 2, 4, の4つの数字を使って、最大の数と最小の数を作ります。最大の数は4220、最小の数は0224ですね。次に、最大の数から最小の数を引いてください。 $4220 - 0224 = 3996$ ですね。この操作をカプレカ操作と言います。今度は、3996を使って同じことをします。 $9963 - 3699 = 6264$ 。これを続けます。 $6642 - 2466 = 4176$ 。 $7641 - 1467 = 6174$ 。 $7641 - 1467 = 6174$ 。6174という数字が出たら、あとはこの数字の繰り返しです。最初の数が何であっても最後は6174に行き着きます。おもしろいですね。

この6174という数字はカプレカ数と呼ばれています。最初の数が3桁の数の場合は、495がカプレカ数です。4桁の数の場合、必ず7回以内のカプレカ操作で6174に行き着きます。ですから、8回を越えても行き着かない場合は、途中で計算ミスをしているということです。お孫さんの引き算練習にはうってつけです。皆さんもお孫さんといっしょに試しにやってみては。(つづく)



“甲辰”とは？ その2

後藤 芳昭

前回“わんりい”291号(2024年3月号)では、甲辰とは？のタイトルで干支の生い立ちやその解釈、読み方、循環表を紹介しました。

今回は、干支をどう算出、割り出すか？を紹介합니다。

1. 干支の算出法:2024年はどう算出するか？

まず、①年号 2024 年から 3 を引きます。⇒ 2021 次に②60 で割ります。2021÷60=33 あまり 41 (これがポイント)。

③このあまりの 41 を干支の循環表(下表参照)から探す。⇒甲辰

他にも算出法はありますが、このやり方が一番早く、簡単です。

この手法は、5月末に横浜で開催された、神奈川県漢詩連盟主催の漢詩講演会で、講師をされた国士館大学名誉教授・鷺野正明先生の伝授です。

なぜ3を引くのか？は、不明です。

60で割るのは、干支が60で一巡するからと思われれます。

そして、この算出法で自分の生年の干支も簡単に算出できます。

僕は1949年生まれ。まず3を引くと1946。

60で割ると32あまり26。

循環表の26番は、己丑(つちのと/うし)です。それが何なのか？

2. 己丑(つちのと/うし)の意味を探る

己(つちのと)は、「起」起きる意で、万物が元気いっぱい立ち上がることを指す。

丑(うし)は、「紐」つまみやボタンの意で、縄でしばられている状態。草木が芽吹く際の屈曲しながらもゆっくり強く地面に這い上がることを指す。〔農歴と民族文化〕、張 冰隅著、上海教育出版社)

自分は、そういう干支のもとに生まれたと観念すればよいわけである。

干支のすべてにそれぞれの意味が隠されていますがここでは、詳細は割愛します。

良く年初に当年の干支をキーワードに政治・経済の予測がされますが、干支はそれぞれ、古代人が縁起の良い文字をあてがい順序正しく物事がだんだんと成長発展するよう祈願したものです。

3. 自分の生年の干支を探す

これを機会に自分の干支を探しだし、今後の人生を考えるヒントにしたいものです。

確かに世間では、干支の年表も購入できますが、自分の力で探し出す、そういう自助力をいつまでも持ち続けたいものと思います。

1. 甲子 (きのえね)	2. 乙丑 (きのとうし)	3. 丙寅 (ひのえとら)	4. 丁卯 (ひのとう)	5. 戊辰 (つちのえたつ)	6. 己巳 (つちのとみ)	7. 庚午 (かのえうま)	8. 辛未 (かのとひつじ)	9. 壬申 (みずのえさる)	10. 癸酉 (みずのととり)
11. 甲戌 (きのえいぬ)	12. 乙亥 (きのとい)	13. 丙子 (ひのえね)	14. 丁丑 (ひのとうし)	15. 戊寅 (つちのえとら)	16. 己卯 (つちのとう)	17. 庚辰 (かのえたつ)	18. 辛巳 (かのとみ)	19. 壬午 (みずのえうま)	20. 癸未 (みずのとひつじ)
21. 甲申 (きのえさる)	22. 乙酉 (きのととり)	23. 丙戌 (ひのえいぬ)	24. 丁亥 (ひのとい)	25. 戊子 (つちのえいぬ)	26. 己丑 (つちのとうし)	27. 庚寅 (かのえとら)	28. 辛卯 (かのとう)	29. 壬辰 (みずのえたつ)	30. 癸巳 (みずのとみ)
31. 甲午 (きのえうま)	32. 乙未 (きのとひつじ)	33. 丙申 (ひのえさる)	34. 丁酉 (ひのととり)	35. 戊戌 (つちのえいぬ)	36. 己亥 (つちのとみ)	37. 庚子 (かのえね)	38. 辛丑 (かのとうし)	39. 壬寅 (みずのえとら)	40. 癸卯 (みずのととう)
41. 甲辰 (きのえたつ)	42. 乙巳 (きのとみ)	43. 丙午 (ひのえうま)	44. 丁未 (ひのとひつじ)	45. 戊申 (つちのえさる)	46. 己酉 (つちのととり)	47. 庚戌 (かのえいぬ)	48. 辛亥 (かのとい)	49. 壬子 (みずのえいぬ)	50. 癸丑 (みずのとうし)
51. 甲寅 (きのえとら)	52. 乙卯 (きのとう)	53. 丙辰 (ひのえたつ)	54. 丁巳 (ひのとみ)	55. 戊午 (つちのえうま)	56. 己未 (つちのとひつじ)	57. 庚申 (かのえさる)	58. 辛酉 (かのととり)	59. 壬戌 (みずのといぬ)	60. 癸亥 (みずのとい)

みんなの広場

●麻生市民館サークル祭

6月8日(土)、9日(日)、恒例の麻生市民館サークル祭が行われました。わんりいは、ボイストレーニング公開講座と水墨画教室で参加しました。

★ボイストレーニング

午前中の開催は初めてで、朝10時からどれ位の人が集まって下さるのかと心配していましたが、次々と集まって下さり、延べ25人ほどの方に参加して頂きました。



まず、大きな声で自己紹介

E mme 先生のご指導で、軽いストレッチ、滑舌の練習、声の出し方を習い、元気いっぱい声を出し、明るく楽しく歌を歌って終了となりました。



身体全体を使って声を出す

参加者の皆さんはボイストレーニングにとっても興味を持って下さり、楽しかったとの感想でした。コーラスで長年歌っている方の、“こんなに楽しく声を出したのは初めてだ”との感想が、とても印象的でした。

★水墨画教室

会場が分かり難いので気がかりでしたが、わざわざ水墨画教室をめぐり来てくださる方が多く、午前午後、合わせて、延べ12人(付き添い、見学の方を除いて)ほどの方が参加されました。



先生の手許をのぞき込む

講師の満柏画伯が、画面上の墨の濃淡、構図の粗密などの説明と共に、お手本として竹や蘭を描いてくださいました。その後、

参加者の皆さんが思い思いに描いた絵に、先生が一筆、二筆加筆すると、見違えるような絵になり、皆さん喜んでいらっしゃいました。

中でも、5~6歳の男の子が、午前のクラスで墨絵がすっかり気に入って、午後にも再び参加して、満柏画伯に褒められて喜んでいました。



満柏画伯のお話を聞きながら筆を動かす

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

やれ打つな
蠅が手をすり足をする

小林一茶

gāo tái guì shǒu mò dǎ yíng
高抬贵手莫打蝇

hé shǒu zuò yī zài tǎo mìng
合手作揖在讨命

【わんりいの催し】

♪ **ボイス・トレで日本語の歌を歌おう!**
身体力を抜いて気持ちよく発声しよう!
声は健康のバロメーター!!

*動きやすい服装でご参加ください。

- **会場**: まちだ中央公民館 美術工芸室
- **日時** 7月 9日(火) 10:00~11:30
8月 20日(火) 10:00~11:30
- **講師**: Emme [エメ] (歌手)
- **会費**: 1,500円 (講師謝礼・会場費)
- **定員**: 15名 (原則として)
- **申込**: ☎042-735-7187 (鈴木)

~~~~~

## \*\*\* 中国語で読む 漢詩の会 \*\*\*

漢詩で磨く中国語の発音! 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう!

- **会場**: まちだ中央公民館 視聴覚室
- **日時**: 7月・8月は 休講  
再開は9月又は10月
- **講師**: 植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授
- **会費**: 1,500円 (会場費・講師謝礼)
- **定員**: 20名 (原則として)
- **申込**: ☎090-1425-0472 (寺西)

Email: ukiuki65jppj@yahoo.co.jp  
(有為楠)



### ■7月・8月定例会 代表宅

- ▼ 7月 18日(木) 13:45~
- ▼ 8月 8日(木) 13:45~

### ■'わんりい' 発送 三輪センター

- ▼ 8月号 休刊
- ▼ 9月号 未定

## ☆☆ 編集後記 ☆☆

今年の梅雨の入りは6月も20日を過ぎてからでした。しかし、梅雨の間の降水量および梅雨明けの時期は平年並みだそうで、この時期の極地的な豪雨には注意が必要だ、と気象予報士が警告しています。

そう言えば、最近梅雨時には、線状降水帯が発生して、想像を絶する激しい雨が長い時間降り続き、一部地域に大きな災害をもたらすというパターンが増えて来ました。これが平年の梅雨の姿になってしまったようです。

状況は違っても、世界各地で同じように「今までと違う」現象が起きて、作物の生育に影響が出ているようです。気候変動による世界的な食糧不足が、ぐっと現実味を帯びてきました。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します

年会費: 1800円、入会金なし

郵便局振替口座: 00180-5-134011 わんりい
10月以降の入会は、当年度会費 1000円

■問合せ: 044-986-4195 (寺西)

‘わんりい’ 295号の主な目次

寺子屋 四字成語(74)『鴻鵠之志』……………	2
「日译诗词」(42) 白居易の詞『憶江南』…	3
「中原雑感」(43)	
「少浪底」の国際的ブランド化(つづき)・	4
「避暑山荘・外八廟」駆け足旅行(14)…	6
阿里山の“尾無しの竜”……………	8
“国民詩人”と呼ばれた「北原白秋」(1)	10
2桁掛け算を暗算で求める早業(2)…	12
“甲辰”とは? その2……………	14
みんなの広場……………	15
‘わんりい’の催し・お知らせ……………	16